

第282回 「インストラクショナルデザインの理論とモデル」輪読

第11章 理解を促進する

マーシャ・ストーン・ウィスケ、ブライアン・J・ベイティ

- 深い理解を学ぶニーズは高まっている→“理解”という種類の学習に着目することは重要
- ↓
- 理解のための学習を進めるための枠組み（「理解のための教育 (teaching for understanding) のフレームワーク」)
 - 生成的なカリキュラムトピック
 - 明示的な理解のゴール
 - 豊かな系列による理解の実行
 - 学習進行中のアセスメント
 - 協同的で省察的なコミュニティ

この章で扱う“理解”とは？

- 理解って？？？
 - 「何らかの知識を所有していること」…ではない！
 - ↓
 - パフォーマンスを実行する能力 (performance capability) と定義！
- 「ある事柄を理解した学習者は、それに関する知識を実践的な状況を含んださまざまな事象に柔軟かつ創造的に応用することができる (p.249)」
- ↓
- テクノロジーの発達によって「理解のための学習を進めるための枠組み」を実行することが現実的となった。



テクノロジーとの関連

- 新しい教育ツールの方が伝統的な教材よりも明らかに優れている(p.251)
 - テクノロジーを用いると「理解のための学習を進めるための枠組み」がより実行可能になる。
- 教える側の資源を圧迫しない、比較的簡単な技術から徐々に始めること
- 教える側が不慣れな場合は、支援者などを活用することが有効
- すぐに利用可能な場合は、理解のゴールを支援する新しいコミュニケーションツールから(p.248)



生成的なカリキュラムトピック

- 「学術的な専門性や分野、主題の範囲内もしくは複数のものにまたがった多様で重要なアイデアとつながっている」
 - 「学習者にとって、真正で、利用しやすく、興味深いだけでなく、学習者の経験に関連した方法で組み立てられるべき」
 - 「理想的には、教師にとっても魅了的で、説得力のあるもの」
←教師も情熱を注ぐことができる
 - 「多元的なエントリーポイント」からアプローチできるもの」
 - 「学習者が徹底的に掘り下げていく中で生じてくる新たな質問によって継続的な探求を生み出し、推奨するような枠組みで示されるべき」
- テクノジとの関連：インターネットは授業内容と現実世界とのつながりを支援／学習者の興味に沿う複数の入口を支援



明示的な理解のゴール

- 「与えられた情報」の範囲を超え自身の理解を構築し、得た知識を柔軟かつ創造的に応用することを重視すること
- 理解の4側面を含むべき
 - ① 知識(重要な理論や概念、「大切なこと」)
 - ② 1つ、もしくは多くの専門分野において、知識を集め、分析し、実証する方法
 - ③ 学習の目的の理解(理解の種類ごとの有用性と限界、個人的な学習目的を形成する自律性の開発も含む)
 - ④ 表現形態(知識を効果的に伝達するために聴衆ごとに適した表現や修辞的な観衆を用いること)
- 「カリキュラム計画のレベルの間を首尾一貫してつなぐこと」
- テクノロジとの関連:ハイパーリンクでリマインダや支援情報をつなぐ/シミュレーションやグラフで重要な概念の振る舞いを示す



豊かな系列による理解の実行

- 「主体的な学習（アクティブラーニング）や創造的な思考を必要とする」
- 「学習者がより複雑で洗練された理解を徐々に開発するために」教える側は「周到に計画する」
 - 学習者は「戯れること」によって既知の知識や経験と学習トピックを関連づけ、質問をつくれるようになるなど
- 「ガイドされた探求」の実行サイクルと構築する」
 - 成果物のひな形を示す→成果物のドラフトを準備させる→成果物を洗練させ応用する機会を与える
- テクノロジーとの関連：映像、アニメーション、その他のメディアで成果物を作成、統合を支援／チームで探求する方法を支援



学習進行中のアセスメント(1)

- 理解のゴールに直接的に関係する明示的で公開ずみの基準に基づくものであること
- 学習者の作業と教え方の両面について向上させる提案を創造するものであること
- 正式の評価活動とともに、インフォーマルな活動を含むものであること
- 教える側や学部評価者、そして学習者自身(相互評価・自己評価)により行われるものであること
- 評価のためのルーブリックを用意すること



学習進行中のアセスメント(2)

- 「フィードバックのはしご」を用いて、アセスメントに参加する4段階についての明示的な提案が与えられること
 - ① 明らかにしたいことを尋ねる
 - ② 強みを評価する
 - ③ 課題を確認する
 - ④ 改善のための提案を提供する
- テクノジとの関連: 学習成果をデジタル化して集めることでレビューや改善を支援(学習者は学習成果を蓄積できる) / 学習成果へのコメントもできる



協同的で省察的なコミュニティ

- 「共有されたゴールや共通言語を用いて学習者に彼ら自身の理解について対話させ、省察させるべき」
- 「学習者は学んでいるものに対する異なる視点や考え方の違いからの学びによって恩恵を受けることができる」
- テクノジとの関連：ネットワーク技術によって時間的、距離的に離れている協力者とも容易に成果の交換、統合、改善を行うことができる／具体的な人工物（書き言葉など）という形で残す過程により評価や注釈が可能となり、省察が促進される

